

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400124		
法人名	有限会社 嶋野商事		
事業所名	グループホームさきしり		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字妙堂崎字崎尻44-1		
自己評価作成日	令和5年8月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	令和5年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アットホームな雰囲気、自宅に居ると同じような気持ちで過ごせるよう支援しています。また、あまり時間に拘束されことなく、ゆっくりした環境の中で、安定した気持ちで過ごせるように支援していきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム周囲は田んぼに囲まれ、岩木山も眺めることができ、四季折々の風景を感じることができる環境にある。  
職員は利用者一人ひとりに応じた対応を心がけ、日々のサービス提供に取り組んでいる。  
また、献立は職員が作成し、利用者の好みの物や地元の旬の食材を使い、手作りの食事を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を掲示しています。利用者さんの個性を捉えることで、利用者さんの現状の生活を維持できるように目標を定め、取り組んでいます。	「私たちは「温かい心」と「人ありき姿」を大切にし、「その人らしさ」への新しい価値ある暮らしを創造し、常に進化し続けます」という経営理念を作成している。理念はホーム内へ提示しており、職員が理念を共有してサービス提供できるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の地域貢献推進協議会に参加したり、訪問した利用者さんのご家族様とも交流しながら、情報交換等を行い、地域との交流を図るようにしています。	ホーム周辺には民家がなく、コロナ禍で訪問者も制限しているため、交流が難しい状況だが、町の地域貢献推進協議会に参加したり、ホーム前にのぼり旗を掲げ、地域の相談窓口であることをお知らせする等、できる限り地域との関わりを持てるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、見学やボランティアの受け入れ等はしていないものの、認知症の相談には随時対応し、必要に応じて他介護事業者等に引き継いでいます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、運営推進会議のメンバーに資料を送付し、書類で行っています。ご意見やご質問等がある時は連絡していただき、業務に活かすようにしています。	運営推進会議は2ヶ月に1回の開催を予定しており、コロナの感染状況をみながら、書面によりホームの取り組み状況等を報告し、メンバーから意見を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には役場職員や地域包括支援センター職員にも参加していただき、その時に出た意見やアドバイスを参考にして、取り入れられるものは取り入れるようにしながら、協力関係を築けるように取り組んでいます。	地域包括支援センターや役場の職員が運営推進会議のメンバーとして参加しており、ホームの現状を把握していただいている。また、何か問題が生じた際は随時行政に相談し、課題解決に向けて連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしておらず、不穏状態になった利用者さんがいた場合は、職員同士が声をかけ合い、見守りを強化しながら対応しています。施錠はしておらず、玄関や窓にベルを設置することで、開ければわかるようにしながら対応しています。	身体拘束に関するマニュアルを作成している他、会議や内部研修等で勉強する機会を設け、職員が身体拘束の内容や弊害を理解できるように取り組んでいる。ホームでは身体拘束は行わないという姿勢で日々のケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催しており、「虐待は絶対にしない」という認識を持って業務に従事し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて成年後見制度について学んでおり、今後、制度を利用したい利用者さんがいる場合は、関係機関と協力しながら支援していきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書等を通してグループホームの説明をし、質問等がないか確認しています。質問があった場合はその都度、説明しています。退所時の内容についても、契約書等を通して説明しています。また、利用内容に変更があった場合は早目にお知らせし、説明することでご理解いただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様と面会する時は必ず利用者さんのホームでの様子を報告し、毎月、手紙にまとめてお渡ししています。その時に質問や要望がないか確認し、あった場合はご家族様と相談して決めています。その時の内容は職員同士で共有し合い、より良い介助ができるようにしています。	家族等が意見や苦情を出しやすいよう、重要事項説明書に相談・苦情窓口を明示して説明している他、玄関に意見箱も設置している。また、出された意見や要望は職員間で話し合い、日々のケアに反映させる体制を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場を心がけ、勉強会等を通して、意見や提案を聞く機会を設けています。また、利用者さんと良い関係が築けている職員は、その関係を大事にしてケアに取り組んでもらっています。	毎日の申し送りや職員会議等、職員の意見や提案を聞くことができる機会を設けている。また、職員からの意見や提案は、できる限りホームの運営やサービス提供に反映させるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	主任や職員から適時報告を受け、職員の思いや状況を把握するようにしています。また、給与のベースアップや労働日の調整等を行い、職員同士が協力し合いながら、楽しく働ける環境を作れるように心がけています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、法人内で勉強会を行う等、一人ひとりが向上心を持って取り組める環境を作れるように心がけています。資格取得等を積極的に支援し、職員の知識や技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に町の事業者で行われる勉強会に参加することで、サービスの質を向上できるように取り組んでいます。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時に、思いを引き出せるような聞き方をしたり、また、利用者さん同士の会話からも思いや要望を組み取って、他職員にも伝え、その思いに答えられるように努めています。また、安心して生活ができ、良い関係を築けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談があった時にはご家族様にも必ず面会し、不安な事やご要望等を確認しながら、なるべくご希望に沿えるように努めています。また、対応が困難な場合は他事業者と連携することで、信頼関係を築けるよう、意識して対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者さんやご家族様の希望を確認しながら、必要としている支援を見極め、希望に沿えるようなプランを立てています。困難な時は職員の意見も参考にし、対策を考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	エプロンや新聞をたたむ等、利用者さんができる事は手伝ってもらっています。「ありがとう」と感謝の気持ちを伝え、利用者さんに自分の存在を感じてもらえるように支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には些細な事でも報告してアドバイスをいただく等、共に利用者さんを支えられるよう、関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防のため、施設内での面会や外出もままなりません。施設に来所した際は風除室のガラス越しに会話していただく等、短い時間でも馴染みの人との関係が途切れないように支援しています。	アセスメントや関係者からの情報収集により、利用者の馴染みの人や場所を把握しており、これまで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者さんがホールでテレビを見たり、会話をしている他、音楽を聴く等しながら一緒に過ごしています。レクリエーション活動では得意・不得意があるため、お互いに手伝ったり、教え合ったりすることで、良好な関係を築いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんの退所後もご家族様から連絡を受けることはありますが、まだ、相談や支援をすることには至っていません。相談等をされた場合はフォローできるように努めたいと思います。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの要望等があった際は、どのような内容を訴えているのか理解するように努め、本人が満足することを目標にして取り組んでいます。	日々の生活の関わりの中で、利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握するように努めており、家族や関係者からも情報収集を行っている。また、意思疎通困難な場合は表情や行動を十分に観察し、職員で話し合いの上、支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に利用者さんやご家族様、関係者等から聞き取りをし、情報収集を行っています。入所後にご家族様にホームでの様子を報告し、自宅に居た頃はどうか等、新たな情報も得ています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄の時間等を記録し、毎日の生活リズムを把握できるようにしています。また、日々の介護から気づいた事や思った事について申し送りを行い、話し合いをしながら、利用者さんの心身の状態を把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングやアセスメントを行い、普段の様子から、本人のできる事とできない事を職員間で確認するようにしています。利用者さんやご家族様の意向もその都度確認し、介護計画に反映させるようにしています。	介護計画作成時は利用者や家族の希望を確認し、関係者からも情報収集の上、作成している。また、見直しの際も評価やモニタリングを行い、職員間で十分に話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	誰が見てもわかるよう、詳しく記録することを心がけています。それを基に職員で話し合い、介護計画に反映させるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の心身の状況に合わせて支援するようにしています。他機関のサービスも参考にし、取り入れる事ができるものがあれば、取り入れるようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター主催の勉強会に参加する等しながら、地域と関係機関に情報提供と協力をお願いしています。得た情報の他、私達も地域にどのようなサービスがあるのか調べて、外部の方とのつながりを持つように努めています。担当外の場合は、地域のケアマネジャーと連携を図るようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者さんやご家族様の意向を尊重し、自宅に居た時と同じ病院に通っていることが多いため、かかりつけ医とも連携が図れています。その他、受診が必要な場合はご家族様にも相談しながら病院を決め、受診結果を報告しています。	入居時にこれまでの受療状況を確認し、希望する医療機関を受診できるように支援している。また、受診結果は家族に報告して、情報の共有化を図っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者さんの情報共有を図れるように申し送り等を行い、看護師からの助言を参考にしながら、最適な受診ができるように調整しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、入院先の病院に情報提供を行い、ご家族様も交えた治療方針の話し合いの場にも参加しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入院時、利用者さんの状態が重症化した場合、状況によってはホームでの暮らしの継続が困難な場合があることも伝えていきます。ホームでの生活が困難と判断された場合は、次の受け入れ先の確保と、入所できるまでの支援を継続することを説明しています。	ホームの方針として看取り介護は行っていないことを入居時に説明している。また、利用者が重度化した場合や緊急時には、家族や医療機関、ホームとで話し合いを行い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、勉強会を通して、定期的に手順の再確認等を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間を想定しながら、年2回の避難訓練を行っています。避難訓練後は水消火器を使った消火訓練も行っています。	いざという時は適切に避難誘導できるよう、災害時対応マニュアルが作成されており、年2回、日中・夜間を想定した避難訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんは人生の先輩であるという意識を持って、馴れ馴れしくならないように、言葉遣いにも気をつけるようにしています。プライバシーに配慮した対応にも心がけています。	職員は利用者に声がけし、本人の反応や意思を確認してから次の行動に移しており、職員本位のケアにならないようにしている。また、利用者への対応や声がけ等で気になることがあれば、都度職員同士で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	質問する際は利用者さんの気持ちを引き出せるような声がけをし、表情からも読み取るようにしています。日頃からコミュニケーションを図り、本心が言えるような環境作りを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのその日の希望に応じて、利用者さんがやりたい事を尊重するように援助しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段から利用者さんの好みで衣服を選んでもらう等、おしゃれができるように支援しています。また、身だしなみをさりげなく整えたり、理容師さんに定期的に訪問してもらう等、普段から衛生管理のもとで、清潔な状態で過ごせるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員がおいしく食べられるようなメニューを献立に盛り込み、下膳等の後片付けができる利用者さんには手伝ってもらうようにしています。	利用者の好みを把握し、家庭的な献立となるようにメニューを考え、調理している。また、利用者一人ひとりの希望や能力に応じて、テーブル拭きや食材の下拵え等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量のチェックは毎回行い、摂取量が少なく、状態が気になる場合は病院を受診し、医師に報告・相談しながら、指示を仰いでいます。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの促しをしています。また、自力でできる利用者さんでも、歯磨きやうがいが終わった後、きちんと磨けたか確認しています。自力でできない利用者さんや磨き残しがある利用者さんには、職員が口腔ケアの介助を行い、口腔内の清潔を保持できるように支援しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	認知症の進行や病気の影響で失禁が増えている利用者さんもありますが、失禁があっても、定期的に声がけや誘導し、トイレでの排泄を維持できるように支援しています。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握することで、自立に向けた適切な支援を行っている。職員は利用者の羞恥心やプライバシーに配慮し、支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、軽い運動や体操を促し、水分も多めに摂ってもらうように声がけしながら、便秘を予防しています。それでもなかなか排便のない時は、処方されている下剤を服用し、排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は柔軟に対応し、週2回は入浴できるように支援しています。拒否される利用者さんには工夫しながら声がけすることで、定期的に入浴することができており、清潔に過ごすことができます。	利用者一人ひとりの入浴習慣や希望、体調や羞恥心に配慮しながら、個々に合わせた入浴支援に取り組んでいる。また、入浴を拒否する利用者に関しても、対応を工夫しながら、週2回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんは起床時からホールへ出てきて、ホールで過ごしていることが多いですが、昼食後は体調も考慮し、体を休めてもらっています。就寝時間も一人ひとり違うため、それぞれの生活リズムに合わせて休息できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった時は職員間で申し送りを行い、利用者さんの様子に変化がないか、観察しています。服薬についても飲み忘れや飲み間違いがないか、二重に確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション活動、エプロンや新聞たたみ、ホール内のお手伝い等、本人ができる事を協力してもらいながら、気分転換を図れるように支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、外出の機会は減っているものの、普段であれば、本人の意思を尊重しながら身体的に無理がないかを判断し、花見や買い物支援等を計画的に行うことで、戸外に出かけられるように支援しています。	以前は家族にも協力してもらい、利用者の希望に応じた外出支援を行っていたが、コロナ禍のため、自粛している。ホームでは、通院時に車内から風景を眺めていただく等、可能な範囲で利用者が気分転換できるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染予防のため、一緒に買い物に出かけることも少なくなりましたが、小遣い程度のお金は施設で管理しています。本人の希望に応じておやつを買ってくる等、お小遣いの範囲で対応できるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたり、手紙を書く利用者さんはいませんが、制作活動等を通してご家族様に気持ちを伝えられるよう、支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は、その時の季節が感じられるような飾り付けをしています。また、利用者さんの普段の様子を写したスナップ写真も掲示しています。ホール内に温・湿度計を置き、風通しを良くして、快適な空間となるように工夫しています。	ホーム内の温度や湿度は定期的にチェックし、快適な空調となるように管理している。また、共有部分や廊下には行事の写真や季節感のある展示物があり、季節の変化がわかるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファ席とテーブル席があり、ほとんどソファ席で過ごされています。動ける利用者さんは自由に移動し、介助が必要な利用者さんには希望する場所に座ってもらい、利用者さんが思い思いに過ごせるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用した物を自由に居室へ持ち込めるように促しています。どのような物が必要とされてくるか、状況に応じながら家族と相談し、取り組んでいます。	入居時に、馴染みの物を持ち込むことの必要性について説明している。居室には利用者が以前から愛用していた物が持ち込まれており、生活しやすい居室作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置しており、安全に移動できるようにしています。また、自室前等に大きなプレートを下げ、目的の場所を間違えないように工夫もしています。		